

第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会 第5回会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 会議名 | 第2次安曇野市生涯学習推進計画策定委員会第5回会議 |
| 2 | 日時 | 平成29年11月9日(木) 午前9時32分から11時19分まで |
| 3 | 会場 | 安曇野市役所 共用会議室306 |
| 4 | 出席者 | 宮下健司委員長、平田米子副委員長、安井邦夫委員、宮下克彦委員、百瀬佳子委員、幅修一委員、上兼裕委員、亀井智泉委員、平倉勝美委員、古川節雄委員、堀金隆雄委員
《事務局出席》 山田教育部長、生涯学習課蓮井課長、堀金、古畑
株式会社KRC(計画策定支援業務委託業者)小林、長峯 |
| 5 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 6 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 7 | 会議概要作成年月日 | 平成29年11月16日 |

会議事項等

○会議の概要

- | | | |
|---|------|--|
| 1 | 開 会 | 蓮井生涯学習課長 |
| 2 | あいさつ | 宮下委員長、山田教育部長 |
| 3 | 会議事項 | (1) 第5回策定委員会の位置づけと第4回策定委員会までの経過等について
(2) 第2次生涯学習推進計画素案の検討
(3) 今後の予定について
(4) その他 |
| 4 | 閉 会 | 平田副委員長 |

○会議事項

(1) 第5回策定委員会の位置づけと第4回策定委員会までの経過等について(事務局より説明)

(2) 第2次生涯学習推進計画素案の検討(事務局より説明)

【委員長】 ページを区切って質問、意見、字句の訂正等をあげていただきたい。最初に第1章、2～3ページについて。

【委員】 目次内と3ページ、「位置づけ」「位置付け」と何か所かあるが、漢字であったりひらがなだったりするので合わせてほしい。

【委員長】 次に第2章、4～5ページについて。

【委員】 5ページの図で示してあるところについて。文字が小さくて、この状態だと読めない人が結構いるのではないか。

【委員】 5ページの県の生涯学習に関する動向について、新聞報道で県の総合計画の方針が載っていたが、挙げる必要があればそちらも見えていかなければいけないと感じた。

【委員】 4ページ、「ICT」「SNS」という言葉が出てくるが、幅広い方に見ていただくと初めてこういう言葉に出会う可能性もある。取り上げるときりがないが、中でも核となるような言葉には注釈や簡単な説明をつけると理解が深まると思う。

【事務局】 注釈の入れ方について、まとめてページを設けるか個々に入れるか等を含め検討したい。

【委員長】 続いて第3章、6ページから9ページについて。

【委員】 グラフ中、赤枠で囲った部分は重要度、注目する部分という意味があると思うが、例えば7ページ⑧の『生涯学習に取り組んでよかったと思うこと』というところでは、回答率が高い項目について、生涯学習にはこういう効果があるのだなという宣伝効果のような、読み手が関心を持ち、意識できるような表示も、課題部分として示すのとは別にあればいい。

【事務局】 表示方法を工夫してみたい。今のこの表示状況は文章の説明に対応するポイントだけを赤枠にしているが、各グラフのそれぞれ上位、突出する部分に枠をかけるのも手かと思う。どういう形がいいか、また入れてみて皆さんの御意見をいただきたい。

【委員】 赤枠がついているおかげで文章が理解しやすかった。今の話にあった突出部分等についても、何かの方法でできれば入れてもらいたい。

【委員長】 これだけたくさんの項目がページ内にあるので、焦点化して読ませる、視点を与えるというのはいい。配慮して検討してほしい。

続いて第4章、10～11ページについて。

【委員】 11ページ、24歳以下のスローガンの中、「子供」の字がここだけ漢字なのでこれについても全体で統一を。

【委員】 10ページで、生涯学習の基本理念がページ最下部になっているので、できれば次ページ最上部に持ってくるなどして目立つようにした方がいい。

【委員】 文章の流れでいけば、上の項目(4-1)があり、「これを受け、」という始まりでこの基本理念の項目(4-2)があるので構成的には変えられない。

【事務局】 項目の順序は崩さずに、次ページ以降の重複項目を削るなどして工夫していく。

【委員】 11ページの同ページ内で、「思い」と「想い」の2種類の漢字が使われているので統一したほうがいい。

【委員】 10ページは市の総合計画の内容なので今からどうにもならないかもしれないが、将来都市像に「田園産業都市」とある。これを「田園産業文化都市」とはできないか。変更の余地があるのであれば「文化」の言葉も入れて検討してほしい。そうすると基本目標の1～5も色濃くなる気がする。

【委員長】 上位計画のことであるので、御意見として承りたい。

【委員】 25～44歳のスローガンで、文中「地域のためとなる」を「地域のためになる」とした方がいい。

【委員長】 続いて第5章、ここはさらに2つに区切り、まず5-1 学習機会の充実について。12ページから37ページまでで、意見、質問、字句の訂正等をお願いしたい。

【委員】 13ページに「朗人大学」とあるが、これはこの字で使われているのか。

【事務局】 安曇野市の老人大学はあえて朗らかという字を使用している。

【委員】 25ページの「対象」に突然「△」が出てくるが、「◎：とくに重視する世代」か「○：連携・協働したい世代」以外に要るのであれば説明書きが欲しい。

【事務局】 検討過程で残ったものかと思うので、確認して改めたい。

【委員】 14ページの文中に「フェイスブック」「ツイッター」という言葉があり、おそらく分かりやすくするためにカタカナで記されていると思うが、調べると正式登録名称はアルファベット表記。正式なもので載せた方がよいのかどうか。

【事務局】 見やすさでいってもアルファベットのほうが認知されているかとも思うので、そちらのほうがいいかと思う。

【委員】 27 ページに「子育て勉強会・育児相談の実施」の項目があり、担当部署が生涯学習課社会教育担当となっているが、ぜひ母子保健の担当も入れてほしい。子育てのしづらさに苦しんでいるお母さんたちが学びの場を通して救われる、次の世代のお母さんへの力をエンパワーメントしてあげられるような存在になり得るとは思うが、やはり保健師の力なしでは考えられないことなので、ここはぜひ母子保健担当も入れていただきたい。

【委員】 27 ページ、上から4行目「実施ます」を「実施します」に。

【委員】 19 ページ「託児サービスの提供」について、市議会傍聴でも子連れの方の託児をファミリーサポートで行っていることから、これも追加し担当部署の子ども支援課も載せたほうがいい。

【委員】 27 ページ、青少年体験事業の実施のところで「児童」とあるが、対象を24歳以下としてあることから、児童という言葉でよいかどうか。

【委員】 27 ページに「アウトリーチ」という言葉があるがわかりにくい。

【事務局】 平易な言葉に言い換えるか。または注釈を入れて対応したい。

【委員】 27 ページ「博物館・美術館における親子向け事業の実施」の中で、「歴史資料や美術品に触れられる機会を設け、」とあるが、今は美術館でも博物館でも、見たり触れたりだけでなく体験するということがある。ここにも「体験する」という言葉を加えてもらおうと活動が広がっていくかと思う。

【委員長】 最近の世の中の動きからしても体験という言葉は加えていいと思う。今の27 ページの同じ②で「歴史資料」とあるが、歴史の場合は資料というと物質文化的なものであり、この他に文字で書かれたものは「史料」。歴史の方面では「歴史資料」という言葉で使用する。ここでも史料という言葉の方がいいかと思う。

【委員】 ライフステージで示されている対象の世代について、抜けているところが見受けられる。例えば、24 ページの「ICT 関連講座の開催」は対象が24歳以下と25～44歳のみになっているが、これに関しては高齢者や他の世代でもいけるのではと考える。また、19 ページ「公民館講座の開催」も、交通手段がないということなどから身近な公民館を活用し対象が65歳以上となっているが、障がい者で車の運転ができない場合、また運転免許を持っていない人なども対象になるのではないかと。さらに28 ページの「朗人大学の開催」については60歳以上とあり、ライフステージに分けてないので、他同様にライフステージで示した方がいいのではないかと。

【委員】 障がいを持っている方へのバリアフリー化についての言及が素案全体を通して出てこない。障害者差別解消法が動き出して1年以上たっているのに、障がいをお持ちの方も情報収集でき、妨げ要因ができるだけ低く、施設も使いやすく、発表の機会も得られるよう、この計画のどこかに入れてほしい。それを文言で宣言してほしい。障がい者はこれから確実に増えることがわかっているのに、この方々をきちんと視野に入れた素案を作してほしい。

【委員】 外国人についても同様。市民全体に行き渡る説明がどこかにないとまずい。おそらく何も知らないでいるのが実情ではないか。

【委員長】 安曇野市の思いやりの部分がこういうところに表れると思う。21 ページ「防災啓発活動の支援」の文章について「東日本大震災などが近年多発し、被害が激甚化している災害に対する防災意識の高まりを受けて…」というようにしたほうが文章がすっきりするか。23 ページ「多文化共生のための講座の開催」の文の中で「誰もが安心して便利に暮らせる…」とあるがこれを「誰もが安心して豊かに暮らせる…」としたほうが言葉として定着がいいかと思う。24 ページ①「芸術講演」の字は「公演」に。34 ページと35 ページ、④の文中と目標内に「調査研究事業」とあるがこれは事業ではなく活動だと思うので「調査研究活動」にした方がいい。37 ページ⑤の目標内に「自ら学び挑戦する…」とあるが、挑戦という言葉をあえて使うかどうか。「向上する」というような言葉の方が優しい。挑戦するというとやや語呂が強くなってしまう。

【委員】 23 ページ⑥「多文化共生のための講座の開催」のなかにある「インバウンド」という言葉も注釈が必要かと思う。また、同ページ⑧「スポーツ教室の開催」のなかで「ホームタウンとなっているプロサッカーなどの観戦や応援」は、「…プロサッカーチーム…」とするかまたは具体的な名称でもいいのではないか。

【委員長】 続いて5-2 学習成果の活用、38 ページから 49 ページまで。

【事務局】 訂正をお願いしたい。41 ページ⑤「地域文化祭の開催」の地域が「豊科、穂高、明科の…」となっているところに、三郷と堀金も追加する。

【委員】 ジュニアリーダーについて、45 ページ②に「ジュニアリーダー養成講座の開催」というものがあり、開催数や参加者数を施策指標にしてあるが、例えば子ども文化祭のようなものを企画運営していくことによってジュニアリーダーは育っていく。そういう活動を通して育成していくものであり、何の目標もなく「ジュニアリーダーを養成します」という講座を開いただけではなかなか育たない。そのあたりの兼ね合いは難しいところもあるが、講座類と発表は切り離しては考えられない。一つのまとまったものという考え方でジュニアリーダー事業に取り組んだほうが、成果が上がり、次へつながる。子どもが企画するものを定期的開催するなどして、養成と結び付けていくことが大事だと思う。

【事務局】 ジュニアリーダー、シニアリーダーというのは育成がなかなか難しい。特に高校を卒業して地元を離れてしまうとその後が困難。現在、実際に養成としておこなっているのは夏休み前に地区子ども会活動でのレクレーションを覚えて地域で活動してもらい、また、11 月に三九郎の作り方の講習会を開催し、育成会や子ども会のリーダー的な方に集まってもらい、作り方を身につけ地域に戻り指導していく。このような活動を続けるなかで、地域でもリーダーの組織ができればという形でおこなっている。

【委員長】 47 ページ⑧「リーダーバンク制度の活用」の文中、「地域の自然や歴史、」とあるところに言葉を追加し「地域の自然や歴史・民俗、」とした方がいい。その後ろにある「地域」は「知識」に訂正を。また、目標のところに「知識や技能を持つ者」とあるが何の知識、技能なのかわからないので「地域に関する知識や技能を持つ者」と入れるとわかりやすい。

それでは次に、第6章から最後まででお願いしたい。

【委員】 52 ページ以降、表中にある「成果指標」について、残部率やフォロー数などはいいが「受講者のうち働く世代の講座参加率」や「受講者のうち交通手段がない人の講座参加率」はいちいち聞いていかないとわからないと思う。講座においてアンケートをとるのか、現在はアンケートをとらない講座も多いがどのように調べる予定なのか。

【事務局】 生涯学習課本庁で実施している講座については現在、毎回アンケートをとっているが、アンケート項目のなかに該当質問を設け聞いていくことで成果の抽出をかけたいと考えている。これがすべての講座でできるかというところもある。また、成果指標については現時点でまだすべてのものが揃ってはいない。指標で示すのが難しい項目もある。とは言ってもまったく指標がないと5年後、10 年後の成果がわからないので、できれば代表的なものをあげたり、目標に合致したものにしていくか、10 項目に対して1つずつにするか、などの工夫をしていきたい。施策指標、成果指標についてはもう一度、各担当職員へ投げかけたいと思っている。今日の会議により具体的な内容を増やしていかなければいけない部分もあるので、全体を見てもらい難しい部分は訂正をかけていきたい。

【委員長】 前期計画、後期計画とわかれているので、前期の計画での成果を後期に反映させていく意味でもこのことは非常に大事になっていく。よく現場と打ち合わせをしながら臨機応変に対応していくことが大事かと思う。

【委員】 52 ページからの表のレイアウトについて、2 ページに渡っていて左から右へと見ていくのが若干見づらい。レイアウトの工夫で見やすくしてほしい。

【委員長】 施策番号が表中に2回出てくるのも少し煩雑な感じもする。

【委員】 55 ページ、ブックスタートの行にある「図書配付」の「配付」の文字、「配布」かどうか

を確認してほしい。

【委員長】 54 ページ「芸術講演・講習会の開催」の講演は「公演」に直し、同ページ下から3段目にある「調査研究事業」は「調査研究活動」に、「資料」は「史資料」に、先ほどと同様にそれぞれ訂正を。

【委員】 47 ページには「聴覚障害者」とあるが、漢字を使うのか「障がい」とするのか。

【委員長】 安曇野市では「障がい」とひらがな表記ということなので直してほしい。

(3) 今後の予定について

(4) その他

【委員】 図書館、美術館など個々に、計画に沿って事業等をおこなっていくことはわかる。先ほど出た青少年育成のジュニアリーダー育成がなかなか困難だという件についても、例えば各関連部課で連携して図書館や公園、美術館、スポーツ施設などを提供し、子どもたちがグループで研究や研修活動していくような形、ここに地区のボランティア等が食事作りに関わったり、または子どもが食事作りをする手伝いをしたりする。これを日帰りまたは宿泊により夏休みまたは春休みに行い、頭も体も動かす機会を、計画として市で一つ設けるのもいいかと思う。地域だけにとどまらず、市全体として施設をまわって開催するような事業の検討もどうか。施設のPRにもつながると考える。

【委員長】 生涯学習というのは多岐に渡り、いろいろなところが複合している。市の生涯学習推進計画についても計画推進本部や庁内プロジェクト会議があったり連携していく仕組みがある。事務局としてどうか。

【事務局】 生涯学習課の施設については、体育施設や公民館等について検討していきたい。

【委員】 最近、他の自治体で子育て施設の見学会を市主催で行ったというのを聞いた。いい施設や資源があってもなかなか市民が知らないということが多い。生涯学習計画ができて市民の皆さんは文言で見るだけで、実際に触れたり見たりという機会がないとわからないので、この計画ができた暁には生涯学習施設をまわる見学会、ツアーみたいなものを企画すれば、より実現に近づいていけるかと感じた。